

平成30年6月

自己資本比率 100%

平成30年4月11日に「日本道經会」様より講演を依頼され、会場で会長の田原道夫様と名刺交換させて頂いた際に財務の話題に在り、田原さんが代表取締役会長をされている(株)ソフテックは自己資本比率が100%と仰って、「利益が出てる会社なのに決算のときに未払法人税等や未払消費税が計上されるので絶対おれないでしょう」と言った。決算期末に少々多目に支払っているのがそうです。感動するやう、ムックリしました。月次決算書と月末の午後5時には作成されているそうです。すごい会社です。

私は日経トップリーダーという雑誌で約2年向「高収益体質エクササイズ」というタイトルで連載しています。中小企業の財務体質の改善の仕方を書いていて日経BP社より去年の2月に「小さな会社の財務コレがけ」も出版し、財務体質改善の具体的なやり方を書きました。この本を読んでもお客様に在っていた方が数多くおります。また5月23日には、Alibaba Groupのアリババ(株)の方が来社され、中小企業の財務のポイントについて連載してほしいという依頼を受けました。財務のより本を探した結果上記の本を読み私に依頼してくれました。今日は財務について書きます。経営の究極の目的は、資金を増やすことです。資金の蓄積とは、借入金残高が減り、現金が増えることです。すなわち、財務体質をよくすることとは、現金 > 借入金でこの差額を毎年大きくすることです。売上と利益と手段の1つです。財務は、損益計算書(P/L)ではなく、貸借対照表(B/S)に在ります。P/Lは見ると数字が弱い経営者でもわかりますが、B/Sは読むもので数字が弱い経営者は、失敗と無駄が多く、古田士会計のアドバイスを求めていると思っております。

自己資本比率100%の会社の社長は間違いなく財務を知っています。負債がないということは、現金以外の資産も少ないということ。売掛金管理、在庫管理はもとより、土地建物等の固定資産は持たざる経営をするとも、固定資産投資も営業キャッシュフローの額以内にするやう、設備投資で借金することはありません。財務に弱い社長は、B/Sが読めないやう、資金を持っていないと不安なやうで、余分な現金を持ち、余分な借入金があり、資金があるので安心し、売掛金管理や在庫管理が甘く、経理も担当者任せなやうで、経理に使い込みがあり、有価証券の投資に失敗した大きな損失を計上することもあります。無借金の会社は経営者が安心してかえって危ないという人もいますが、現実を見れば一目瞭然です。無借金の会社はほとんどつぶれていません。つぶれている会社は、支払手形のある会社と借金、多い会社です。無借金でつぶれる会社は、デリバティブ取引で巨額の損失を出した等の例外中の例外なやうです。

財務体質を改善して安定した会社にするためには、B/Sの勘定科目の残高を変えることです。B/Sの左側の科目、固定資産の科目残高は可能な限り少なく、できるだけゼロにする。流動資産の科目残高は、売掛債権、棚卸資産は少なく、現金を多くする。左側の資金運用は、上半身が筋肉隆々の男性。例えれば、ほうれん草を食べたホパイをイメージしていただくか、はよいと思っております。右側の資金調達はおしりの大きい安産型の女性のイメージです。現代型のハ等身の女性では調達のバランスはよくありません。流動負債である支払手形は少なく、買掛金も早く払い、固定資産を少なくして、長期借入金を少なくする。そして純資産を増やす。取引後利益しか純資産は増えないので税金は財務体質改善のコストと見て払う。私が書いたことは、原理原則です。現金と借金が多くても財務をしっかりと理解している社長も少ないですがいます。しかし、多くの社長が財務に弱いので、会社は財務の基盤をしっかりと固めて、設備投資、海外進出をすべきです。

古田士 満